

## 推敲あれこれ

木畑紀子×高野公彦

⑥



また「あたり一面」では場所が漠然としているので、一例として「草藪」と明確にしてみました。

**高野** 全体的に歌のレベルがぐんと高くなりましたね。カッコ良さそうな「緑したたる」はカビの生えたような決まり文句で、この言葉からは緑でなくてカビがしたたっている感じ(笑)。

## ◆慣用句を別の言い方にする

**高野** このリレー対談も六回目を迎えました。今回は京都の木畑紀子さんに登場していただきます。推敲例を用意して下さったので、それぞれについてお話を伺いたいと思います。

泣き虫の少女はいづこ休日に鼻歌まじりにケーキ作りす (原作)  
泣き虫の少女はいづこ休日にケーキ焼きつつ鼻歌が出る (改作)

**木畑** 「鼻歌まじりに」という慣用句をやめて、「鼻歌が出る」と素直な表現に改めました。また「ケーキ焼きつつ」と具体的な場面を出しました。

**高野** なるほど、「鼻歌まじりに」は通俗的で軽い感じがする。「鼻歌が出る」のほうが自然でいいですね。それから「ケーキ作りす」はどんな場面か、はっきりしませんか、「焼きつつ」は具体的な場面が浮かんで来ます。

どくだみの白花群れてきはだちぬあたり一面緑したり (原作)  
一面を緑がおほふ草藪にどくだみの白群れてきはだつ (改作)

**木畑** 上の句、下の句が倒置になっていますが、順直な語順にして一首を滑らかにしました。  
**高野** 滑らかでゆったり感があります。  
**木畑** それから「緑したたる」も慣用句なので、「緑がおほふ」にしてみました。

## ◆動詞を減らす

コロナ禍で家に籠もれる日のつづくヨギング始め減量をする (原作)  
コロナ禍で籠もり暮しも丸一年ジョギングをせんダイエツトをせん (改作)

**木畑** 原作は「籠もる」「つづく」「始める」「する」と動詞が四つもあるので、上の句を名詞化しました。  
**高野** 動詞が多いと、気ぜわしい歌になりますね。

**木畑** 下の句の「く始めくする」は散文調なので、改作は「せん」のリフレインで意志的な表現にしました。  
**高野** 良くなりましたね。では次です。

鶯がピッコロ、蛙がファゴットを奏で

てをりぬ朝の田園 (原作)

うぐひすのピッコロかへるのファゴツ

トがひびかふ朝の田園散歩 (改作)

木畑 原作が説明調なので、助詞の

「が」を「の」に変えて、読点も省いて、さらに漢字を平仮名表記にしました。

高野 いいですね。柔らかな自然な感じの歌になりました。なるべく漢字を使わず平仮名にするのは大賛成です。

木畑 原作は四句切れですが、四句切れの歌は何となく厳肅な雰囲気があるので、そうなるのを避けて切れ目なしの歌にしました。

高野 ほう、「四句切れの歌は厳肅な雰囲気がある」、言われてみればそんな気がします。それとは別に、原作は風景描写の歌ですが、改作は作者が登場します。そのほうが歌が生き生きしますね。

木畑 これ、じつは私の歌なんです。

高野 えっ、そうでしたか。じゃあもつと褒めましょう。

木畑 いえ、じゅうぶん褒めていただきました(笑)。

◆ 述語を省略してはダメ

五階から居待ちの月におやすみを長く  
会はない友を思ひて (原作)

長く会はぬ友を思ひて五階から居待ち  
の月におやすみを言ふ (改作)

高野 これは私が用意した推敲例です。

作者は「おやすみを」だけで「おやすみを言ふ」と同じ意味があると思っ

ようですが、それは誤った考えです。

木畑 さちんと述語を入れる必要がありますね。

高野 そこで、「言ふ」を入れるために、一首全体、上と下を入れ替えました。

木畑 うまく収まっていますね。

高野 初句が字余りになりましたが、これはやむを得ないと思います。

木畑 このほうが重みがあつてプラスの効果があるかもしれませぬ。

◆ 内容の平凡な歌を底上げする

ジョギングのあと帰り来て冷蔵庫の水

で潤す喉の渴きを

(原作)

ジョギングを終へて冷たき水飲めば水  
は身ぬちの水路をくだる (改作)

高野 原作は欠点のない歌ですが、これだけでは内容が平凡で物足りない。

木畑 その通りですね。

高野 そこで、内容を変えずに何とか面白味のある歌にしたいと思つて、一つの具体例を考えてみました。いわば作品の底上げです(笑)。

木畑 いいですねえ、「水路」を持つてきたのが高野さんの創意工夫ですね。

高野 ただ、「水飲めば」「水は」「身ぬちの」となつて、「み」の音が重なりすぎるのが気になります。

木畑 なるほど。それを避けるなら、

ジョギングを終へて飲みたる冷水が身ぬちの細き水路をくだる (改々作)

としたらどうですか。

高野 あつ、いいですね。単に「水路」というより「細き水路」というほうがアリティが増しますねえ。作者に代わつて御礼を申し上げます(笑)。

木畑 いえ、そんな。

高野 どうもありがとうございます。

イラスト「鬼に金棒」(高野公彦画)